

### ③ アドバイザー会議議事録



第1回周南市合流式下水道緊急改善事業  
事後評価アドバイザー会議 議事録

日 時：平成27年11月10日（火）13時30分～14時30分

会 場：周南市上下水道局庁舎3階会議室

出席者：委員6名

（佐賀委員、前田委員、小林委員、橋本委員、磯村委員、大石委員）

オブザーバー3名（環境政策課1名、下水道施設課2名）

事務局7名

欠席者：なし

傍聴人：なし

1. 周南市上下水道局次長あいさつ
2. 委員、オブザーバー、事務局の紹介
3. 会長、副会長選出  
会長に佐賀委員、副会長に前田委員で決定。
4. 議事
  - 1) 合流改善計画の必要性
  - 2) 合流改善計画策定の流れ
  - 3) 周南市における合流改善計画
  - 4) 事後評価  
（事務局が資料をもとに説明。）

委 員：合流式の問題点の説明があり、事後評価のための具体的なデータは次回ということ。

委 員：職場の近くの川が、大雨が降ると濁流がすごくて、そのあときれいになるが、未処理放流の対象河川ではなかった。

委 員：未処理放流によるトイレトペーパーが流れなくなるなど、スクリーンの効果は？

事務局：あります。

委 員：雨水分流化について、評価指標のひとつの総降雨量10～30mm時以上降った場合の効果もあるのではないか。全体の中で、どれだけなのかなど示せるのでないか。

委 員：貯留管は整備済みなのか？

事務局：貯留管整備は、長期対策事業であるため、今回の緊急改善事業には該当せず、整備はまだです。

委員：有楽町や、徳山駅前が、大雨でオーバーフローして浸水していたが、改善のため整備された事業と、合流改善事業との関連は？

事務局：浸水対策として実施しており、今回の緊急改善事業には含まれておりません。駅前は、55mm雨量対応で整備しており、整備後55mm相当の雨は降っていないが、浸水は起きていないのが現状です。

委員：事後評価は、次回会議でとなるが、ざっと達成の見込みは？

事務局：事業の進捗を精査中で、進捗度合によると思われる。

委員：スクリーンについて、東京の方で高性能なスクリーンを設置している話を聞いたが、緊急改善事業ののちの対策は。

事務局：スクリーンについては、清掃で機能回復を図っています。現在下水道関連では、設置後50年近く経過した、老朽管の改築・更新や、徳山中央浄化センターの改築、また浸水対策や事業継続性（BCP）を高める事業が、重要になっています。それに比べると、合流改善事業は、性能向上のための事業であり、現状予算を重点的に充てていくのは難しい状況である。対策としても、下水道のみでは限界を感じており、雨水が合流管へ入る量を減らしていく、歩道透水性舗装、宅地浸透枳なども考えなければならぬと感じている。

## 5. その他

次回会議を平成28年1月に予定。

第2回周南市合流式下水道緊急改善事業  
事後評価アドバイザー会議 議事録

日 時：平成28年2月3日（水）13時30分～14時30分

会 場：周南市上下水道局庁舎3階会議室

出席者：委員5名

（佐賀委員、前田委員、小林委員、磯村委員、大石委員）

オブザーバー2名（環境政策課1名、下水道施設課1名）

事務局7名

欠席者：橋本委員

傍聴人：なし

1. 会長あいさつ

2. 会議成立の確認

委員6名のうち、5名出席で会議が成立

3. 議事

- 1) 対象事業の進捗状況
- 2) 目標の達成状況と達成の見通し
- 3) 対象事業の整備効果の発現状況
- 4) 事業の効率化に関する取り組み状況
- 5) 今後の方針

（事務局が資料をもとに説明。）

委 員：スライド14について、部分分流化、雨水分離、せき嵩上げに、丸がついていないものがあるが？

事務局：緊急改善計画にて、対策の必要な箇所に対策を実施しており、必要としたところ全てに実施済みという表記となります。（スライド9が計画で、スライド14が実績となる。）

事務局：補足説明として、スライド39について、長寿命化事業で、管路に余計な水が入らない対策をすすめていきたいと考えている。スライド19にある貯留管の設置には、事業費56億円で、3.9kmの布設は現実的に非常に困難である。他課との協力も必要であるが、透水性歩道や各家での貯留柵などを検討したいと考えている。

委 員：長寿命化事業というのは、全部を新しくするのではなく、既存の性能を活かして、効果を出していくというイメージですね。

事務局：補足説明として、スライド29について、H18ごろに1号遮集管のコーティングによる不明水対策を実施しており、日平均汚水量が減少し

ています。

委員：そのことがわかるように、図示するとわかりやすい。

事務局：そのようにします。

委員：スライド37について、ソフト対策の「2. 雨水を直接下水道に流さず有効利用を検討する。」の意味は？

事務局：雨を貯めて庭木の散水利用など、下水道へ入れない雨水の利用。合流式下水道の仕組みが複雑で、表現が難しい。

委員：雨水は、屋根から雨どいへ流れる雨水のことですか？

事務局：そうです。

委員：ソフト対策の1、3、4は、費用の持ち出しなくできるが、2だけは初期コストが必要であり、とても大事であると思われる。

事務局：具体的にイメージできるようホームページの表現を工夫します。

委員：スライド32について、ゲリラ豪雨が増加している傾向であることは理解できたが、合流改善にとってはどのように影響するのか？

事務局：合流改善の評価は10～30mm時の雨であるが、ゲリラ豪雨というのは、より多くの雨水が流れてくるときなので、希釈が大きくなり、量が多くなればなるほど、雨水が流れるのと同じことになり、合流改善への影響は少ないと考えている。

委員：スライド27について、赤の設定除去率を超えている部分についての解析はしていますか？

事務局：雨が多いのかなど様々な要因を解析してみたが、これといった原因は特定できなかった。月2回の法定検査の結果であり、スポットサンプルによる大きなバラツキとも考慮できる。(会議後確認：分流並みであるということを平成14年度の計画策定時に設定した設定除去率であって、ほとんどの実績放流水質が設定内にあり、設定がおおまか問題ないと判断できるとのこと。仮に設定除去率を、実績時を全部含むように上げる場合、目標値も同様に上がるため、達成状況に変わりはないとのこと。)

#### 4. その他

次長あいさつ